

異文化講演会報告

ロシアによるウクライナ戦争 —言語の関係を考える—

第40回講演会

2023年2月11日(土)に、異文化交流研究施設による第40回講演会が大講義室で行われました。講師として茨城キリスト教大学文学部のジャブコ・ユリヤ先生を迎えました。社会言語学専門のジャブコ先生は、「ロシアによるウクライナ戦争—言語の関係—」について話しました。2014年2月27日、ロシアのプーチン大統領は「ウクライナにおけるロシア語系住民の保護」を理由として、はじめにクリミア半島、その後ウクライナ東部のドンバス地方に軍事侵攻しました。それから8年間続いていたロシアによるハイブリッド戦争は大規模になってしまいました。2022年2月24日、プーチン大統領はウクライナに全面的な侵攻を開始しました。ジャブコ先生は、ウクライナでロシア語が広く使用されている背景、そして、ウクライナ人の言語使用や国民的アイデンティティーとロシア・ウクライナ戦争との関係を考察しました。

先生はまず、東スラヴ語群に属しているウクライナ語を他のスラヴ語と比べました。ウクライナ語はポーランド語と特にベラルーシ語に近いですが、ロシア語との共通点は比較的少ないです。プーチン大統領は2021年7月に刊行された論文において、ウクライナ語は「歪曲されたロシア語」にすぎない、と書いています。しかし、その意見は言語学的な根拠を持っていません。先生は次に、1654年から1991年までウクライナを支配していたロシア人は、どのようにウクライナ語の使用を妨害することによって、ウクライナ人をロシア化しようとしたのか、ということについて詳細に説明しました。例えば、1876年から1905年まで、ウクライナ語で印刷物を刊行するのは法律によって禁止されました。スターリンは1933年に、ロシア語とウクライナ語との「調和」を命じて、ウクライナ語の文字、活用、曲用などを変えさせました。また、1938年にロシア語はウクライナの小学校において必至科目になって、1970年にウクライナ語で博士論文を書くのは禁止されました。最後に、先生はウクライナ人による言語使用とウクライナ人のアイデンティティーとの関係について論じました。ウクライナで行われたアンケートによると、日常生活でロシア語を使

用するウクライナ人もウクライナ人である、ということ強く意識し、戦争が始まってからウクライナ政府を支持しているそうです。

今回の講演では、ウクライナとロシアとの関係に対する理解が深まって、参加者には大変好評でした。

(報告者：ミシェル・ドボアシュ)



ジャブコ先生



タラス・シェフチェンコ(ウクライナの詩人) 記念ミューラル(ハルキウ市)
アーティスト：Kailas-V

発行

山口大学人文学部異文化交流研究施設

753-8540 山口市吉田 1677-1 TEL 083-933-5200(代) FAX 083-933-5273

<http://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp>

2023年8月1日